

集い・交わり・語らい・楽しむコミュニティゾーン

伯耆しあわせの郷だより

【発行】 伯耆しあわせの郷 ☎ 26 - 5581 <http://www.shiawasenosato.jp>
 指定管理者 旭ビル管理株式会社



夏の花火大会の由来は、江戸時代の疫病や飢饉の犠牲者を慰霊し、悪疫退散を祈るために始まったとされています。
 倉吉市の花火は8月2日（日）開催されます

「暑さに負けずに」
 暑さの本番を迎えています。今年もやはり猛暑日の連続となりました。熱中症への対策として、エアコンを上手に使い、水分・塩分をしっかりと取って、猛暑の夏を乗り切っていきましょう。
 さて、今月は恒例の「ワイワイスクール」を開催して、館内が元気な小学生の姿にぎわっています。
 また、新しい教室として8月22日に、「薬膳料理教室」を開催します。身近な食材を使って、毎日のごはんに取り入れやすい薬膳を紹介する教室ですので、ぜひ奮ってご参加ください。
 夏が終わると、「10月開講の創作・文化教室」の募集を9月に行い、「第18回伯耆しあわせの郷まつり」を開催してまいります。いずれも詳しくは次号9月号で詳しくお伝えしますが、今年は9月19日（土）と23日（祝）までが大型連休となるため、例年9月に開催しておりました、「第18回伯耆しあわせの郷まつり」は10月3日（土）4日（日）の開催に変更させていただきます。今年も、たくさんの皆様のご来場をお待ちしています。

受講生募集

※申し込みは、8月1日（土）から先着順にて受付、定員になり次第締め切ります。

※受講料は初回前納。納入された受講料は原則返金いたしません。

※受講料のほかに材料費などが必要です。

教室名・講師	日時	回数	定員	受講料
スパイラル体操教室 講師 加藤 文典さん	8月19日（水） 14：00～15：30	1回	15名	700円
薬膳料理教室 「手羽先で作るサムゲタン他」 国際薬膳調理師 管理栄養士 竹本 晶子さん	8月22日（土） 9：30～13：00	1回	24名	700円 （要材料費）
韓国料理を作ろう！ 「ごぼうとじゃこの炊き込みご飯他」 調理師 西尾 春代さん	8月23日（日） 10：00～13：00	1回	30名	700円 （要材料費）

今月の休館日

8月3日（月）、8月10日（月）、8月17日（月）、8月24日（月）、8月31日（月）

フラ教室アロハステージ in ゆりはま出場

湯梨浜町はわいアロハホールで7月5日(日)に開かれたハワイアンフェスのステージイベントで、全国から集まった60団体が104曲を披露しました。当館のハワイアンフラ教室のみなさんも出場し、華麗なダンスで観客席から大きな拍手が送られていました。



9月開講ハワイアンフラ教室受講者募集

ハワイアンフラ教室(2クラス)の受講者を募集しています。

①13:00~14:15 ②14:45~16:00

受講料10,650円(保険料込) 9月~12月(15回)

申込先 伯耆しあわせの郷 電話0858-26-5581

予告 第18回 伯耆しあわせの郷まつり開催

日時: 10月3日(土)13:00~17:00

10月4日(日)10:00~14:00

ステージイベント、フードコート、縁日コーナー
教室作品展示・作品販売・体験コーナーなど、しあわせの郷の魅力満載のまつりです。

お誘い合わせの上ぜひお越しください。

詳しくは9月号にてご覧ください。



ステージゲスト
和楽衣箱(わらいばこ)
太鼓・篠笛・舞踏・獅子舞・南京玉すだれなど和楽で楽しませるステージをお贈りします。



④講師の名越蒼竹先生による講評と解説

⑤書道教室のみなさんが中心となって設営する七夕飾り



書道教室・日曜条幅書道教室作品展開催

書道教室(水曜)と日曜条幅書道教室(木曜)に作品展を7月11日(土)~26日(日)の会期で開催しました。

また、7月初旬から旧暦の七夕となる8月初旬まで笹飾りを設置しました。書道教室のみなさんがメインに短冊を寄せられますが、今年是一般の利用者様も多く参加され、例年以上にぎやかな七夕飾りになりました。

福井貞子先生のお作品集

「倉吉紆の礎」販売中



販売場所
県立美術館 ミュージアムショップ
(「福井貞子展」開催中 8/1~9/27)
伯耆しあわせの郷 窓口(残部少々)

8月1日より県立美術館にて「福井貞子展」が開催されるのを記念して、「倉吉紆の礎」が発売中です。先生の初期の作品から現在までの約80点が、先生の解説付きで掲載されています。ぜひご購入の上、「福井貞子展」をご観覧下さい。

価格 4,000円(税込み) 全190ページ

編集後記

最近熊のニュースを見るたびに、ただ怖いだけでは片付けられない難しさを感じます。ここ数年、日本では熊の出没と人身被害が統計開始以来の最悪水準のようです。2025年度は全国で人身被害が200人を超え、死亡例も二桁に達したとするまとめもあり、2026年も冬眠明けの春から高い警戒が続いています。ここまで増えた原因でいわれるのが、里山の手入れが減り、人の生活圏と山の境目があいまいになった。餌の不作が続く、食べ物がすくない。過疎化や高齢者で「見回り」や「山の利用」が減ったので熊が人を怖がらなくなった、等々。

そこで個人として出来る事で山や里山に入る時は、音を出しながら歩く、最新の出没情報を確認する。家の周りの生ゴミや果実の実、ペットフードなど餌になりそうな物を放置しない。自治体や環境団体が出している資料などで自分の地域の情報を一度チェックしておくのがおすすめです。今一度「人命」「地域の暮らし」「野生保護」「山の文化」考えて見えてはどうでしょうか。